

## 令和 7 年 第 12 回大河原町教育委員会定例会会議録

1 招集日時 令和 7 年 12 月 19 日（金） 午後 2 時 00 分

2 招集場所 大河原町役場 2 階 第 1 会議室

3 出席委員 一盃森広志委員、丹羽宜博委員、林恵美子委員、片倉亜寿香委員、  
鈴木洋教育長

4 説明のため出席した者  
櫻田尚 教育総務課長、齋修 生涯学習課長、

5 開 会 午後 2 時 00 分

6 令和 7 年第 11 回教育委員会定例会会議録の承認について

鈴木教育長 | （委員全員に諮って）承認する。  
林委員、片倉委員 署名。

7 教育長報告

（1）一般事務報告

報告第 13 号 令和 7 年第 5 回大河原町議会定例会（12 月会議）の結果について

櫻田教育総務課長、齋生涯学習課長より説明。

一 盃 森 委 員	今野智志議員の一般質問の中で子ども達の外遊びの環境についての質問があった。学校や公園の遊具について、体力づくりや心の成長のために、安全かつ魅力ある遊具に更新していくべきとあった。 桜保育所の跡地に新たに整備された公園があるが、子ども達がいつも集まって遊んでおり、親子連れなども訪れている。やはり屋外で体を動かしたり、友達と遊んだりするのは心身の発達にとって大変良いことだと感じている。 佐藤暁史議員のクマ対策については、小中学校においてどのような対策を講じているのかという質問であったが、マニュアル作成やクマ除け鈴等の配布も重要であるが、まずは暗くなると危ないので直ぐに帰宅するように先生から指導してもらうといいのではないかと。
丹 羽 委 員	秋山昇議員の児童生徒問題行動・不登校についての一般質問の回答で、不登校の子ども達が通える学びの場として「おおがわら心のケアハウス」を運営して支援しているとあるが、現在のオーガ内において、ちょうど一階にある

金融機関が移転して空きスペースができています。そこに入居するのも良いのではないかと。

報告第 14 号 工事請負契約の変更契約の締結について  
(大河原南小学校 1 号校舎外壁・屋上防水ほか改修工事)

櫻田教育総務課長より説明。

丹 羽 委 員	かなり契約金額も大きく、大規模な工事となっているが、町の負担はどのくらいになるのか。
櫻田教育総務課長	工事金額の一部には国庫補助金や起債を使い、残りが町費となっているもの。
一 盃 森 委 員	このような変更契約は、いつもあるものなのか。
櫻田教育総務課長	校舎の外壁や屋上などは普段なかなか内部まで確認することが難しく、工事の途中で表面の目視だけではわからなかった劣化や破損などが見つかることも多い。 その都度修繕等が必要かどうかを業者と協議し、適切に工事を進めていくため、変更契約が必要になることも多いもの。

(2) 専決事務報告

報告第 7 号 専決処分の報告について  
(令和 7 年度大河原町一般会計補正予算 (第 5 号))

櫻田教育総務課長より説明。

8 議 事 なし

9 その他

(1) 教育長報告

1 極意は失敗の中に (岩田悟)

子供のことを怒らないといけないとき、半分以上は事前にしっかりと説明していない教師の責任である。岩田氏は、「子供に C の評価をするということは、あなたの指導が至らなかったということ」「些細なことでも、面倒くさいと思って連絡を怠ると、その後に 10 倍面倒くさくなるのがよくある」等、極意につながる言葉を大切にしている。

また、失敗を糧にして極意へと近付いていけるような「余裕」が現在少し失われていると説いている。若い教師などは子供と同じように失敗を重ねながら学び成長していくなかで極意を得られるものであり、ベテラン教師や保護者など子供の成長に関わる人々が、もう少し時間と心にゆとりを持って見守っていく必要があるのではないかと。

## 2 「教師が壁をこえるとき」(石井順治)

石井先生が書かれている、授業における「平等性」と「卓越性」については、令和7年11月10日に行われた宮城県教育委員会市町村教育委員会教育懇話会全体会の中で紹介をさせていただいた。若い教員が多くなっている現状で、良い授業がしたいという思いから「卓越性」だけを求める授業になってしまい、一部の分かる子だけが発言をし、その他大勢の子達は、授業についていけずつまらなそうな顔をして黙ってしまうことが多くなってしまう。多くの教員が経験することであり、石井先生もかつて経験された。石井先生はすごい授業を目指す場から、子供とともに学ぶ合う場に転換するという壁をのりこえようとし、この出来事によって「学び合う学び」という授業づくりの概念が生まれ、今に至っているとおっしゃっている。石井先生の実践記録の中では、「卓越性」を捨てて「平等性」を目指す授業にしたことで、子供たちの意見を引き出すことに成功した例をあげ、「平等性」を追求する中で、「卓越性」は生まれてくると述べている。授業における「平等性」とは、学級を構成する全ての児童生徒に対し平等にすることということで、「全員発言」や「全員参加」を意識した授業のことである。ただし、教師主導の一斉授業の中では限界があり、子供同士の『対話的学び』が、「全員発言」や「全員参加」を可能とするのであり、「主体的・対話的で深い学び」のある授業に取り組むことで、すべての子供が深い学びに到達することができるのである。

## 3 「周りの子どもを育てることが重要」(玉置崇)

玉置崇先生の著書より、ある中学校で授業中にわからない男子生徒がいたとき、隣の席の女子生徒が優しく声をかけてくれ、それをきっかけに男子生徒は授業に参加することができた事例をあげ、困難を抱える子供を育てるためには、周りの子供を育てることが大切と述べているもの。

## 4 『なぜ算数の授業で子どもが笑うのか』(加固希志男)

文科省の加固教科調査官の著書であり、若い先生方には是非読んでいただきたい本。

授業のなかで、自力解決の時間を取ることが重要であり、自力解決とは、一人ひとりの意見を尊重するためのもので、子供に考えさせるべきことは考えさせ、様々な考えを認め、子供自身に迷わせ、発見させていくものである。また、文章問題ができるようになるには、問題場面を共有し全員が同じ風景を想像させると、文章だけで指導されるよりも自分の問題として捉えられやすくなる。算数は、「新しい知識や技能を自分たちで創り出す力をつける」ため、創造力を育むために学習するものであるが、子供が自分の考えを発表しなければ創造力を養う授業はできない。間違いを恐れずに発言できる子供に育てるためには、間違えても否定せず、考え方を褒めることが大切である。

また、授業は先生から出した問題を解くことが目的ではなく、友達が「わからない」と言ったことをみんなで解決していくことがねらいとなる。「わからない」というのは魔法

の言葉であり、授業の課題が明確になるだけでなく、「自由に自分の考えたことを言っている」という雰囲気を作り出してくれる。

加固教科調査官は、最後に板書の写真を撮ることを勧めている。先生方は誰でも授業力を上げたいと思っているが、デジカメ等で板書の写真を撮ることで、あとで授業を振り返ったり、どこかで自分の実践を紹介する際に役立つと説いている。

## **5 「学びの共同体」づくりの中学校の挑戦（佐藤学）**

約20年前に出版された佐藤学氏の著書。佐藤氏は「子供が学ぶ権利を奪われて自らの可能性に絶望し、大人が信じられなくなったら、自他に絶望して破壊的になるのは当然の結果」と断言している。静岡県のある中学校で、低学力、不登校、地域からの苦情に苦しんでいたが、「授業の改革」「同僚性の構築」を柱として学校改革に取り組んだ結果、不登校や非行が激減し、学力や部活動の成績も上昇し、学校全体の雰囲気が劇的に良くなったもの。

## **6 資質・能力**

### **（１）「能力」（白井俊）**

白井俊先生の著書『世界の教育はどこへ向かうのか』の「能力」の項より、論理的思考力、批判的思考力、創造性などの「認知能力」と思いやり、共感性、リーダーシップ、自己統制などの「非認知能力」、この両方を兼ね備えた人材が求められているもの。

そして「多様な考えを持つ生徒たちが集まる学校という場こそ、私たちの態度や価値観を研ぎ澄ますための絶好の場」とも言っており、学校教育の意義がますます大きいものとなってきている。

### **（２）〔中学校〕資質・能力の明確化（教科調査官）**

学習指導要領にある「資質・能力」については、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」がベースにあり、その実現状況を教師が見取っていくことが重要と述べている。国語でも英語でも音楽でも、教師がしっかりと生徒を見取り、指導していくことが求められているもの。

## **7 いじめ問題（小野田正利）**

### **（１）なぜ騙されたのか**

### **（２）翻弄されないために**

### **（３）いじめ事件の影にある保護者の問題**

マスコミを巻き込んで嘘を語り続け、「でっちあげ」によって教員を追い詰める保護者について。まさに「モンスター」であるが、学校側が動揺することなく一枚岩になって対応することや、初期段階からの詳細な記録を取ることで、動揺することなく対応することができ、勝訴につながったもの。

いじめ事件の影にある保護者の問題について、子供のトラブルに親が介入し、相手の話を聞き入れず、学校側に非があると批判するという構図が、全国で頻発している。保護者が介入すると収拾がつかなくなることが多くなり、学校や教育委員会でどう対処すべきか。大事なことは当の子供たちの気持ちの確認であり、当事者録音を必ず行い、保護者ではなく、子供本人から、どうしたいのか徹底的に聞き取りをする。その内容を正確に保護者に示して、本人たちの気持ちを尊重させるように保護者を説得することである。「本人たちの気持ちを尊重してみませんか、むしろ、学校も安心・安全な環境をつくって見守っていきます」と徹底的に子供の意思を前面に押し出し、保護者に立ち向かうことが重要である。

## 8 授業記録（大河原小 教諭 永田汐梨）

令和7年7月8日に行われた大河原小学校指導主事訪問での授業記録。3年1組算数の授業における永田教諭の指導について、全ての先生に読んでいただきたいという思いでDVDを見ながら作成したもの。この永田教諭の授業は本当に素晴らしく、子供たちが意欲的に問題に取り組み、発言したがつているのを感じた。永田教諭の授業の進め方や答え方を考えさせる導き方も上手く、何より子供たちの「三人組での対話」が素晴らしく、誰もが自分の意見を言いつつ、相手の意見に耳を傾ける姿は、対話的学びの典型だと言えるものである。また学級全体が明るく、子供たちの心が開放され、何を言っても級友が受け入れてくれるという安心感を持って授業に取り組んでいるのが伝わってくる。どのようにして、このような学級を創り上げたのか、どのように指導してきたのが、永田教諭には文章でまとめていただきたいと強く感じたもの。

## 9 その他

- (1) 大河原中 指導力向上研修会数学（金田一奈都子）
- (2) 小中学校音楽祭
- (3) 大河原町内小中学校 文化的行事
- (4) OH!かわら楽校⑥「お兄さん、お姉さんと遊ぼう」
- (5) 町教研③石井順治先生大河原小授業指導・講演会
- (6) 第50回大河原クロスカントリー大会
- (7) 町地域学校協働本部ネットワーク会議②
- (8) 大河原南小 指導力向上研修算数（大宮克恵）
- (9) 金ヶ瀬小 全学級道徳授業の日
- (10) 金ヶ瀬小 指導主事学校訪問国語（晴山節子、渡辺大介）

各種事業、研修会、会議、講演、授業の様子等について資料により説明。

林 委 員 | まず、11月21日に石井順治先生をお招きしてご指導いただき大河原小学 |

	<p>校の6年4組特定授業「海のいのち」を参観した意見について。前回の定例教育委員会において、石井先生の「海のいのち」実践記録を読み、また私自身も「海のいのち」の授業を何度も行った経験があるので大変楽しみにしていた。ただ今回感じたことは、授業で文学作品を読み描く、読み浸るときにタブレットでのタイピングは適切であるのかということ。当日も意見として述べさせていただいたが、情景や登場人物の心情を読み描く、想像しながら読み浸ることが必要な時は、ノートに鉛筆で書き込むほうがふさわしいのではないかと感じた。デジタルもノートもどちらも利点はあるが、デジタルを使うのは多くの意見を知りたい時などに使用し、今回のような物語を読み解く場面では、やはりノートを使ってほしかった。ノートのほうが読み浸れたのではないかと。タイピングだと画面に集中してしまうことになる。</p> <p>また、授業の後半で意見が物語から離れていったのが残念。せっかく教材文が貼ってあったので上手く使ってほしかった。</p>
丹 羽 委 員	<p>授業を進めるにあたって、子供たちの回答を3分黙っていることすら難しいと思う。先に先生が答えを言ってしまう。石井先生の教えは仏の教え、仏教の中道の教えと同じだと感じた。それぞれの意見を聞き入れ状況に応じて適切な対応をすることである。</p>
一 盃 森 委 員	<p>私自身も教員時代、授業をどう行うかについて色々悩み考えた。まだ若手教員だった頃に先輩から教えられたこととして、教室の光の反射も考えて授業をしなければならないということ。自分で実際に児童の椅子に座り、窓からの光の具合を確かめてみたものである。また、放課後、自分が帰る前に教室に行き、きちんと整理整頓がされているかも確認した。教室が乱れていると、それがそのまま子供たちの心に反映されていくものである。</p>
林 委 員	<p>20年程前に、郡山市の学校の授業を視察した際に、45分間ずっと子供たちだけで話をしているという内容であった。自分は初めてその光景を見て、違和感を感じたが、子供たちは非常に熱心に授業に取り組んでいた記憶がある。</p>
鈴 木 教 育 長	<p>次期学習指導要領の論点整理の中に、主体的・対話的で深い学びの実装とある。今回の教育長報告においても取り上げたが、大河原小学校の永田教諭の算数の授業について、まさに自身がイメージしている対話的で深い学びの授業であった。教師はファシリテーターであるべきで、コーディネーターではないのである。</p>
片 倉 委 員	<p>大河原小学校の永田教諭の算数の授業記録を読ませていただいて、永田教諭の子供たちへの促し方がとても上手だと感じた。他の授業でもクラスの子供たちの関係性がとても良いのではないかと。この授業記録を読んだだけでも、クラス全体が明るく安心感に包まれていることが伝わってくる。</p>

丹 羽 委 員	やはり、子供たちの目がキラキラする教育が一番良い。必ずしも正答がでなくても子供たちが生き生きと取り組んでいける環境を作ってあげることが重要なのだと思う。
---------	--

**(2) 各課長報告**

**教育総務課長、生涯学習課長**

令和7年度行事予定について説明。

**10 次回教育委員会の開催日程について**

鈴木教育長 | 次回の定例教育委員会は令和8年1月15日（木）午後2時から開催する。

**11 閉会宣言 午後4時00分**

令和8年1月15日

署名委員

署名委員